

バーチャルオフィスの活用促進による、 社内コミュニケーションの活性化事例



エン・ジャパン株式会社

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、
2020年4月より、**全社で一斉にテレワーク化**。



これまで活発だった社内コミュニケーションが減少。
結果、**社員の働きやすさ・エンゲージメントの低下**などが
全社的な課題になっていた。



従来の風土(社員同士の風通しのよさ)を取り戻すため、
新たなコミュニケーションツールの導入が急務に。

課題に対する打ち手

10月

ツールの選定

バーチャルオフィス『oVice』導入

Web上のアイコンを動かすことで、出社時のような気軽な会話や情報共有ができるツール。
当時、一部の部署でトライアルをしており、コミュニケーション活性化の効果が出ていた。



同サービスの全社導入の検討を開始。
バーチャル上に、**従来のオフィスに代わる
新たなオフィス空間(バーチャル本社)**の
設立を企画。

11月

ツールの普及

総務主導のプロジェクトを開始

▼総務の動き

- ・ oVice社との定期MTG(仕様改善・開発)
- ・ 総務部署での積極的な活用
- ・ 利用マニュアル作成
- ・ 導入時のサポート
- ・ 活用ノウハウの集約／共有

▼現場部署との連携

- ・ 各組織から協力者を選出
- ・ ノウハウの集約／共有

▼広報との連携

- ・ 社内報での活用レポートの発信
- ・ 全社活用に向けた告知

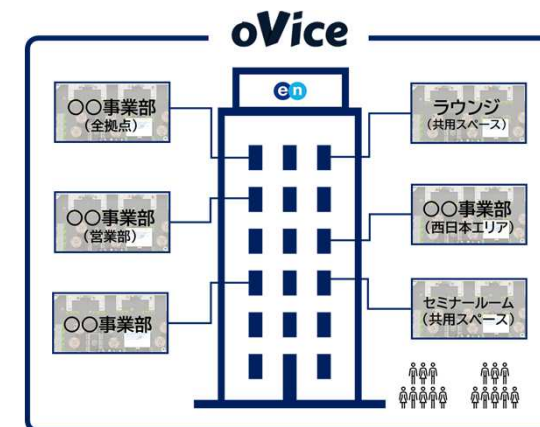
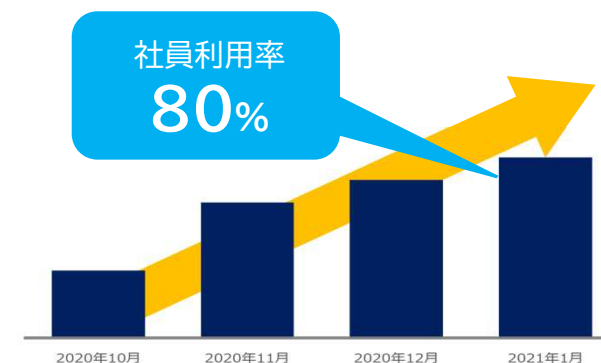
▼人事との連携

- ・ 利用ルール等の策定
- ・ 新卒入社者や内定者への利用促進を依頼

12月

ツールの活用促進

『バーチャル本社』を設立



バーチャルオフィスの活用風景

▼各部門ごとに独立したフロアを構えた上で、お互いのフロアを社員が自由に往来できる仕様に。また、レイアウトは現場で自由にカスタマイズできるので、楽しみながら活用できる。



▼アイコンを近づけて気軽に音声・チャットでの会話などが可能。
(画像左は部長とメンバーの雑談TIME、右は初受注した社員の称賛)

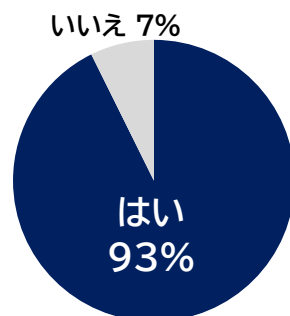


▼部門や拠点横断の商品勉強会もバーチャルオフィスで実施。
パワーポイントの資料を画面共有しながら、カメラをONにして、講師や参加者の表情も確認可能。※顔写真は都合により非掲載

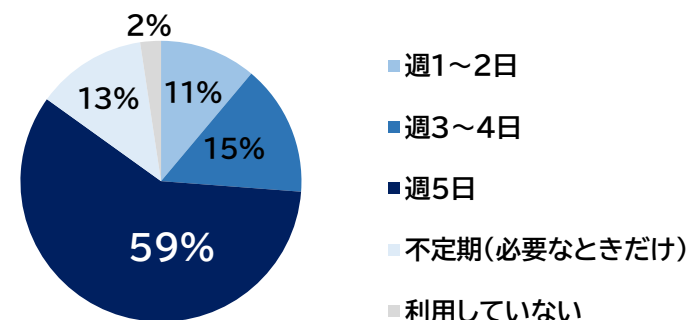


効果測定 + 利用社員の声

Q.バーチャルオフィスにより、働きやすくなりましたか？



Q.バーチャルオフィスをどの程度利用していますか？



Q.どのように仕事がしやすくなりましたか？

- | | |
|----|--------------------------|
| 1位 | 上司に業務上の報告・相談を気軽にできる |
| 2位 | 同期や後輩と業務上の報告・相談を気軽にできる |
| 3位 | 同期や後輩と業務以外の話を気軽にできる |
| 4位 | 上司以外の先輩に業務上の報告・相談を気軽にできる |
| 5位 | 上司と業務以外の話を気軽にできる |

リモートワークになり、最初は孤独を感じていた。バーチャルオフィス導入後は、分からないことがあったときに気軽に質問ができたり、気分転換に雑談をすることができるので、安心感を感じられる。(入社2年目・男性)

チャットツールやメールでは今まで気を使ってしまい、相談しにくいことなどがあった。「電話するほどじゃないけど…」という内容でも、バーチャルオフィスであればパツと話しかけて聞くことができるので、とても便利。(入社1年目・女性)

一人と話をしていたとしても、実際のオフィスのように近くで聞いている同期や先輩が会話に参加してくれる。そこでアドバイスをもらったり、多拠点の社員と交流でき、とても有意義なコミュニケーションができている。(入社1年目・男性)

まとめ

革新・ユニーク性

既存のチャットツールではなく、「バーチャルオフィス」という**まったく新しいツール**への着目。
さらに、**2ヶ月という短期間**で全社導入を実現。

普及・汎用性

どの社員も使いこなせるように、全社向けの利用マニュアルやTips集を作成し定期更新。
現場の主体的な活用を促進するため、良い事例を日々収集し、広報と連携して全社シェア。

ツールの有効活用

バーチャルオフィス利用を強制していない中で、利用率は全社で**80%以上をキープ**。
2021年1月までに**オフィススペースを約4割減床**した中で、バーチャルオフィスを有効活用。

客観的な効果

テレワーク下で仕事の自己完結が難しく、エンゲージメントに影響が出ていた新人社員のうち、**9割が「働きやすくなった」と回答**。上司・部下・同僚・同期とのコミュニケーション不足を解消。

継続性

2020年12月の全社導入後、各部門で継続的にバーチャルオフィスを活用中。
今年は各部署の研修や社内イベントで活用するなど、**さらに利用シーンが広がっている**。

今後の展望

拠点や部署の垣根を超えた交流促進はもちろん、今後は**社外の来客や、イベントの開催**も構想中。
テレワーク下でもイノベーションが生まれる職場環境へと進化させ、社員満足度をさらに高めたい。